

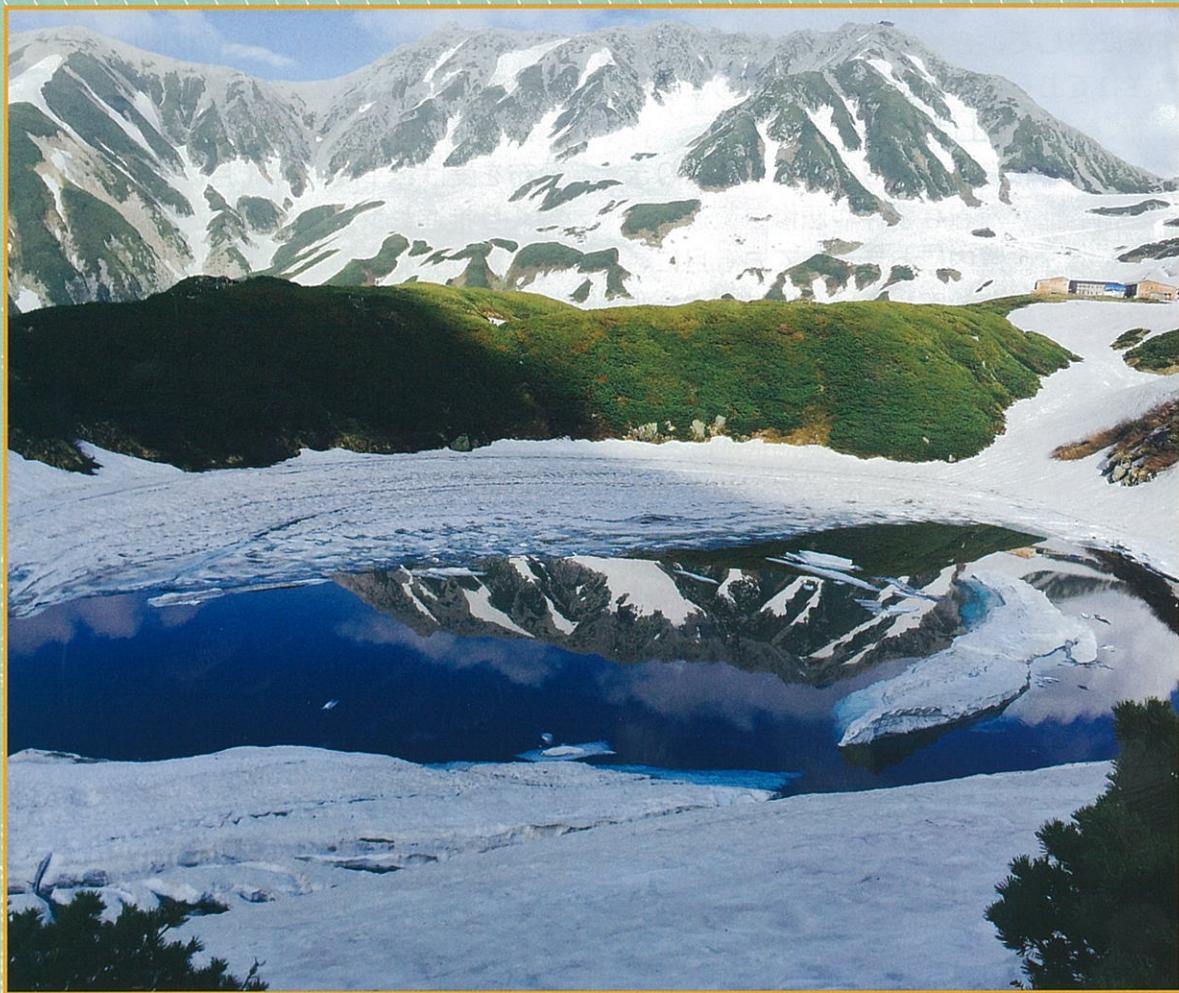
TOYAMA VICTIM SUPPORT CENTER



公益社団法人

とやま被害者支援センターだより

2018.8.31 発行 第28号



「みくりが池」(賛助会員提供)

平成30年度 弁護士による無料法律相談

◆相談は予約制となっております。

まずはお電話ください。

TEL 076-413-7820

とやま被害者支援センターまで

相
談
日

平成30年 9月26日㈬
10月31日㈬
11月28日㈬
12月19日㈬

AM 10:00~12:00

「健やか 展やか 朗らか」な 安全で住みよい黒部市を目指して



黒部市長 大野 久芳

空が高くなり、白い雲がたなびく季節となりましたが、皆様には益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

とやま被害者支援センターの皆様におかれましては、平成18年の発足以来、犯罪被害者やその御家族に対して、きめ細かで献身的な支援に御尽力されておられますことに心からの敬意を表し、深く感謝申し上げます。

さて、日々の報道でも取り上げられておりますが、全国各地で残忍な事件や悲惨な交通事故が相次いでおり、県内におきましても6月に、交番勤務の警察官を殺害してけん銃を奪った犯人が、付近の小学校で警備員の男性を射殺するという、犯罪史上、類を見ない凶悪事件が発生いたしました。地域安全の拠点たる交番が襲われ、本来、最も安全であるべき小学校が恐慌にさらされた今回の事件では、凶悪犯罪の脅威が、決して大都市に限ったものではないことを痛感させられました。

また、5月には新潟市で、下校中の女子児童が殺害され、線路内に遺棄されるという痛ましい事件が発生しており、地域における児童、生徒の安全確保を図るために、官民一体となった『犯罪を発生させない町づくり』の重要性を改めて認識させられたところであります。

発生した犯罪は、逮捕された犯人が有罪判決を受け、刑に服すれば終わりというわけではありません。事件の反対側では、被害者のみならず、突然、最愛の家族を奪われた御家族をはじめとした事件に関わる様々な方が、深い悲しみ、消えない記憶に悩まされていることを忘れてはなりません。

貴センターの迅速かつ柔軟で、きめ細かな支援が、こうした方々の心の支えになっていることを非常に心強く感じており、今後、あらゆる

分野において、温かい支援の輪が広がることに大きな期待を抱いております。

私事になりますが、本年4月に多くの市民の皆様や各界各層の御支援を賜り、黒部市長の重責を担うこととなりました。「健やか 展やか 朗らか 黒部の創造」の実現に向け、誠心誠意、市政運営に取り組んで行く所存であります。

黒部市では、富山県安全なまちづくり条例の公布を受け、平成19年1月に黒部市安全なまちづくり推進センターを発足させ、自主防犯に係る取組みや犯罪抑止に配意した環境整備を促進し、安全で住みよい黒部市の実現を目指しております。

また、不審な声掛けやつきまとい事案などについては、警察署や学校と連携しながら、「不審者情報メール」を配信して注意喚起を行うとともに、防犯協会や交通安全協会の地区支部とも情報共有を図っており、今後も、事案に即した迅速的確な対応に努めて参りたいと考えております。

市民、地域と手を取り合いながら、行政、警察を含む関係機関、団体が協働し、犯罪が起こりにくい環境を整備することが、我々行政に課せられた重大な責務であります。また、犯罪被害に遭われた方に対する行政支援につきましても、一層の取組みを推進していく所存であります。

結びに、とやま被害者支援センターのこれまでの活動に、改めて感謝申し上げますとともに、今後も支援の中核としてその輪を広げられ、被害者やその御家族の心の拠り所となりますよう、また、貴センターの益々の御発展と関係各位の御多幸を心からお祈り申し上げます。

平成30年度通常総会の開催

6月21日(木)、とやま自遊館において平成30年度通常総会が開催され、平成29年度事業報告と決算書が承認されました。また、総会に先立ち永年功労職員等表彰として1名のボランティア活動員に理事長から表彰状が授与されました。



議題 1

平成29年度 収支決算 (単位=円)

	科 目	平成28年度	平成29年度	増 減
経常収益	会費	8,150,000	8,458,000	308,000
	補助金等	10,110,000	16,970,000	6,860,000
	寄付金	530,987	1,049,668	518,681
	雑収入	1,079	965	△114
経常収益計		18,792,066	26,478,633	7,686,567
経常費用	事業費	16,679,480	19,320,817	2,641,337
	管理費	3,667,434	5,117,484	1,450,050
	経常費用計	20,346,914	24,438,301	4,091,387
当期経常増減額		△1,554,848	2,040,332	3,595,180

議題 2

役員の変更

谷口洋幸理事(高岡法科大学 教授)の辞任(H30.6.30)
根田正樹理事(高岡法科大学 学長)の選任(H30.7.1)

報告事項 1

I 事業報告 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

1 支援事業	区分/年度	H28年度	H29年度	前年度比
	相談活動	265件	247件	-18件(-6.8%)
	直接的支援活動	35回	12回	-23回(-65.7%)
	自助グループ支援	11回	10回	-1回(-9.1%)
	○相談活動247件の内訳は、電話相談220件、面接相談が27件であった。			
2 広報啓発事業	○平成26年度から本実施に移行した無料法律相談は、2回の実施。			
	○自助グループの支援活動は、10回開催し、35名が参加した。			
	活動区分・年度	H28年度	H29年度	前年度対比
	広報活動	33回	56回	+23回(+69.7%)
	啓発活動	35回	39回	+ 4回(+11.4%)
	計	68回	95回	+27回(+39.7%)
(1)センターだよりの発行 4月(24号)、8月(25号)、12月(26号)の年3回、各3,500部を発行				
(2)合同市町村巡回パネル展 富山県と合同にて各市町村を巡回するパネルを制作し展示した。				
巡回市町村	期間	延べ日数	閲覧者 動員人員	
15市町村	8/21~1/12	80日	1,825人 65人	

2 広報啓発事業

(3)犯罪被害者週間行事

犯罪被害者週間行事の一環として、11月25日(土)高岡市生涯学習センターにおいて255名が参加。
 第1部 命の大切さを学ぶ教室作文コンクール表彰・最優秀作品の朗読
 第2部 講演 講師グリーフパートナー“歩”代表 本郷由美子氏
 第3部 コンサート 野村小学校ウインドアンサンブル

(4)街頭活動

JR富山駅、高岡駅等で、県警や富山県被害者支援連絡協議会等と協働し、チラシ等を配布。

(5)とやま被害者支援センターの周知

ホームページ、富山地鉄電車、市町村広報誌、JR富山駅地下通路等への広告を掲載。

3 支援員の養成・支援スキルの向上

(1)継続研修等

区分	H28年度	H29年度	前年度比
実施回数	23回	24回	+ 1回(+4.3%)
延べ受講者数	186人	189人	+ 3人(+1.6%)

当センター大久保理事をはじめ、全国ネットワークコーディネーター、臨床心理士、保護観察官、警察職員等を講師に、各種研修活動を行い、支援活動ボランティア等のスキルアップに努めた。

(2)外部研修

区分	H28年度	H29年度	前年度比
参加回数	15回	27回	+12回(+80.0%)
延べ受講者数	31人	113人	+82人(+264.5%)

○全国ネット主催の研修会等に参加し、支援にかかる知識・技能の向上を図った。

○東海・北陸ブロック質の向上研修（上半期・下半期）に参加し、スキルアップを図った。

4 財政基盤の整備

(1)賛助会員

区分	H28年度	H29年度	前年度比
法人(企業・団体)	222	236	+14(+6.3%)
個人(一般・警察職員・警察OB)	2,492	2,501	+ 9(+0.4%)

(2)支援募金箱

区分	H28年度	H29年度	前年度比
募金箱設置数	68個	68個	± 0個(±0.0%)
募金総額	90,494円	152,821円	+ 62,327円(+68.9%)

(3)支援自動販売機

区分	H28年度	H29年度	前年度比
設置台数	42台	41台	- 1台(-2.4%)
金額	218,529円	692,704円	+ 474,175円(+217.0%)

(4)その他

○警察署等からのチャリティ募金、個人・団体からの寄付金等、114,677円を受け取った。

○ホンダリング活動等

警察関係者や賛助会員等から不要となった本の寄贈を受け、その売却した2,371冊分の代金46,643円を寄付金(雑控除432円)として受け取った。

○イオン高岡での「黄色いレシートキャンペーン」において、10,900円の寄付金を受け取った。

5
団体
関係機関
との連携

- (1) 県警との共催による「命の大切さを学ぶ教室」へ9回の講師派遣を行い、2,394名が聴講した。また各地区のネットワーク総会へ参加するなど連携活動を推進した。
- (2) 県、県警、富山地検、法テラス、保護観察所、少年鑑別所等の関係機関と連携を深め、意見交換などより適した支援活動を検討した。

全国共通ナビダイヤルのお知らせ

とやま被害者支援センター(以下、当センターという)が加盟する公益社団法人全国被害者支援ネットワークでは、全国48箇所の被害者支援センターと連携し支援を拡大するため、平成30年4月1日「犯罪被害者等電話サポートセンター」を開設しました。

当センターの電話受付時間外にも相談していただけるようになりました。

全国共通ナビダイヤル(通話料がかかります)

なやみはここよ
0570-783-554 秘密
厳守

受付時間 7:30~22:00(12/29~1/3を除く)

※当センター(076-413-7830)の受付時間内(月~金10:00~16:00／祝祭日・年末年始を除く)は当センターにつながります

行事案内

講演会＆コンサート

日時 平成30年12月1日(土) 13時30分～16時00分

場所 タワー111 スカイホール 富山市牛島新町5-5

第1部 命の大切さを学ぶ教室 「作文コンクール」表彰と朗読

第2部 講演

演題 「悲しみを生きる力に～被害者遺族からあなたへ」

講師 入江 杏さん(世田谷一家殺人事件 被害者遺族)

上智大学グリーフケア研究所非常勤講師、世田谷区
グリーフサポート検討委員。

「ミユカの森」主宰、「えんじにあす」代表取締役



第3部 コンサート 富山市立芝園中学校 吹奏楽研修部

活動報告

研修会

● ボランティア養成講座（5月21・22・24・25日）

5月21日より4日間(11講座)の日程で支援活動ボランティア養成講座を開講しました。

関係機関の専門家の方々を講師にお招きし、3名の新しいボランティアが認定されました。



精神科医 本田万知子先生
「被害者・被害者遺族の心の傷」



被害者遺族の声を聴く受講生

● 継続研修

事例検討会 大久保恵美子先生……… (公社)全国被害者支援ネットワーク顧問・

当センター理事 (7月6日、8月3日)

継続研修会 大久保恵美子先生……… 「殺人事件の被害者遺族の支援」 (7月19日)

油本秋美先生……… 「支援者自身のメンタルケア」 (7月17日)



臨床心理士 油本秋美先生

【参加者の声】

支援活動だけでなく、日常のストレスへの対処の大切さを学びました。とても分かり易く、特に呼吸法や自律訓練法などは実際に体験させていただき良い経験になりました。

ボランティア支援員

● 県外研修

直接的支援実地研修（犯罪被害者支援 都民センター） 1名参加 6月11日～15日

全国ネットワーク主催「質の向上研修」（三重） 2名参加 6月21日～22日

自助グループ支援活動

4月20日 6月15日 7月20日 行われました。



法律無料相談会

5～8月は、2件の相談がありました。

広報・啓発活動

富山地方鉄道 市内電車側面版広告

富山駅地下道への当センター広告展示

滑川市社会福祉協議会発行「ふれあい総合相談」への掲載

市町村広報誌への掲載 富山市、高岡市、射水市

「とやま被害者支援センターだより第27号」の発行

NHKラジオにて、とやま被害者支援センターの活動案内

北日本新聞にて、ボランティア募集の告知

自治体との連携 黒部市被害者支援ネットワーク総会出席

県内各種大会等での広報活動



県警音楽隊コンサート会場



県警音楽隊コンサート会場

●4月20日 盗撮・痴漢防止キャンペーン（高岡警察署主催）広報参加

●8月 5日 県警音楽隊コンサート会場（オーバード・ホール）

募金箱の設置および広報 県内全市町村・自動車学校・関連機関など

講演活動 「命の大切さを学ぶ教室」

5月11日 高岡西高等学校 全校生徒 約360名

6月15日 高岡第一高等学校 全校生徒 約780名

7月 6日 吳羽高等学校 1年生 約240名

7月 9日 高岡工芸高等学校 全校生徒 約800名

7月19日 富山県立総合衛生学院 看護学科1年生 約40名



高岡西高校

命の教室 感想文

富山県で交通事故が起きているのに、自分には関係のことだと思っていました。お話を聞いて、自分も加害者になったり被害者になったりすることがあるということだと感じました。この事件で、ひき逃げ事件の怖さや飲酒運転の危険さがわかりました。大切なご家族を失ったことは、被害者にとてもつらく恐ろしいことだったと思います。長い年月がたっても心にずっと深い傷を残すこと、周囲が被害者の気持ちを置いてきぼりにされていることを知りました。そんなとき事故、事件の被害者を支援する団体が被害者の心の支えになっていることはとても素晴らしいことだと思います。このような活動を広めていってほしいと思います。（1年女子）

今の生活が続いていくことが当たり前ではないのだと思いました。毎日のように様々な場所で様々な事故が起きています。今回の講演を聞いて、自分たちが交通ルールを守るだけでは事故を防ぐことができないと分かりました。誰かが甘い考えているとそれは事故に繋がりかねないし、とても危険です。大切な人を失った悲しみは、お金で済まされるものではありません。失ってからでは何もできません。誰でも被害者・加害者になる可能性があることを忘れてはいけないと思います。車や自転車を運転する人、道を歩く人、全員が交通ルールを守って、大切な人を失う悲しみが生まれないようにしていくべきだと思います。

（3年女子）

イオン幸せいの黄色いレシート キャンペーン

イオン高岡店で毎月11日にお買い物をされ、黄色のレシートを店内に設置された投函コーナーにある当センターのボックスに入れていただきますと、レシート合計金額の1%相当額の物品がイオントリーテル(株)様から当センターに寄贈されます。

センターでは、これを支援活動等の事務用品類に有効活用させていただきますので、皆様のご協力をお願いします。

ホンデリングにご協力を

皆様が読み終えた本などをご寄贈いただき、その売却代金を当センターへの寄付金として頂戴し、センターの活動に役立てるというプロジェクトです。読み終えた本、CD・DVD・ゲームソフトなど、当センターにお持ち下さるか、ご連絡いただければ取りに伺います。

皆様のご協力をよろしくお願いします。

賛助会員・ご寄付のお願い

私たちの活動は、皆様からの会費・ご寄付に支えられています。当センターの支援活動は全て無料で行われており、そのためには経費が必要になります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いします。

○法人会員 1口 10,000円

○個人会員 1口 2,000円

お問い合わせいただければ、お手続きさせていただきます。(事務局 076-413-7820)

犯罪被害者等支援自動販売機の 設置にご協力を

事業所等に支援自動販売機を置いていただけませんか。皆様のご協力のもと、自動販売機メーカーと契約し、売上代金の一部(1本につき1円程度)を寄付として頂戴するものです。現在、県庁や県警、自動車学校等に設置させていただいております。

各事業所の皆様方には是非ご検討をお願いします。

ボランティア募集

とやま被害者支援センターは、犯罪の被害者やそのご家族等に対し、電話相談や警察・病院・裁判所等への付添等を行い、被害者等が再び平穏な日常生活を取り戻せるよう支援することを目的として活動しております。

ボランティアとして応募いただいた方々には、養成講座を受け、支援活動に必要な基礎的な知識・技術を習得の後、被害者等からの電話や面接による相談に応じていただきます。被害者等の心に寄り添う様々な支援にご関心ある方は是非ご連絡ください。

～来春ボランティア養成講座開講予定～

編集後記

迷走しながらも心身に少し余裕を感じてきた6月、奥田交番襲撃事件が発生。尊い命を奪われたお二方には心から哀悼の意を表します。事件以来、不安で眠れない日々をお過ごしの方々には、一日でも早く平穏な日々を取り戻されることを願っております。

公益社団法人

とやま被害者支援センターだより 第28号

平成30年8月31日発行

発行／富山県公安委員会指定犯罪被害者等早期援助団体

公益社団法人とやま被害者支援センター

責任者／事務局長 奥井 博義

事務局／〒930-0858 富山市牛島町5番7号

TEL : 076-413-7820 FAX : 076-471-7825

E-mail/jimukyoku@toyama-shien.com

ホームページ/http://www.toyama-shien.com

相談電話/076-413-7830

